

I. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援

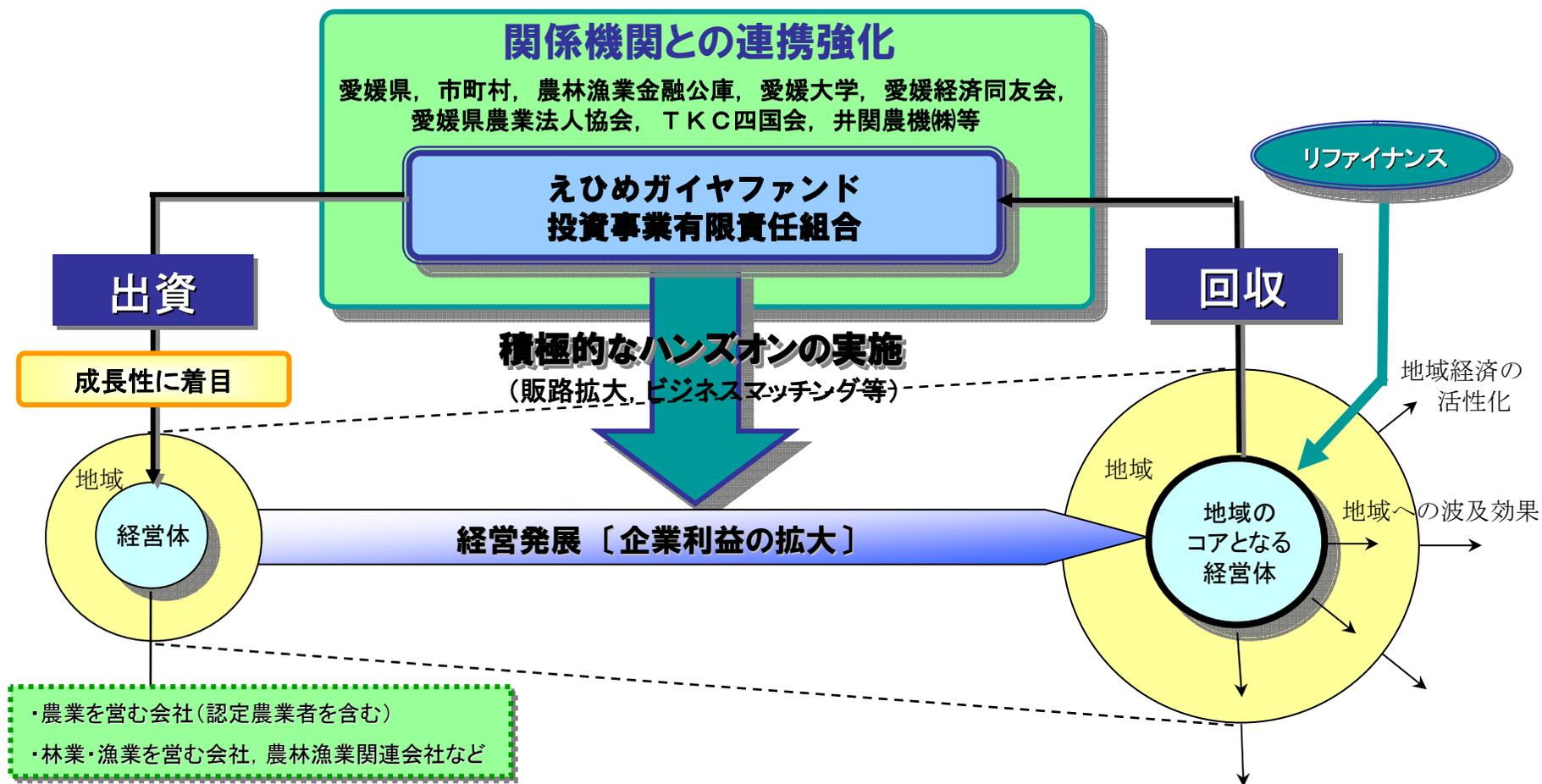
企業育成ファンドを通じた第一次産業支援

(金融機関名)愛媛銀行

1. 動機(経緯)	地域活性化のためには、地域における主要な産業である第一次産業及びその関連産業を核としつつ、地域特性を活かした新たなビジネスモデルの発掘・支援する事が不可欠と考えた。
2. 概要	(1)出資者(組合員) 無限責任組合員(GP)ひめぎん総合リース(株)5百万円 有限責任組合員(LP)中小企業基盤整備機構250百万円、(株)愛媛銀行195百万円、日立キャピタル(株)50百万円 合計500百万円でファンドを構成 (2)ファンドの特性 投資対象の掘り起こしと投資後のハンズオン(投資先に対する育成・支援)を積極的に実施する。地域特有の潜在的な資源(人・物・情報)を顕在化させ、掘り起こし、新技術などで高付加価値の方向に有機的に結合させ事業化を図り、積極的なハンズオンを実施する事で地域の核となる経営体にまで支援、育成を図る。
3. 成果(効果)	平成20年2月末日までに、累計5先(6件)、136百万円の投資を実行した。
4. 今後の予定(課題)	3月には新たに3先の投資実行を予定しており、着実に投資実績があがっている。 今後、販路開拓支援などハンズオンを強化しながら投資先の育成支援を図り、事業価値を高めていきたい。

えひめガイヤファンドを通じた第一次産業支援

ファンド名	「えひめガイヤファンド」
ファンドの特徴	地域特有の潜在的な資源(人・物・情報)を掘り起こし、新技術の導入を図りながら、付加価値を付け、積極的なハンズオンを実施することにより、地域の核となる経営体に成長するまでの支援・育成を行います。
ファンドの規模	500百万円
設立時期	平成18年11月
投資実績(H20年2月末現在)	5先(6件) 136百万円



地域密着型金融に関するシンポジウム

えひめガイヤファンドを通じた 第一次産業支援

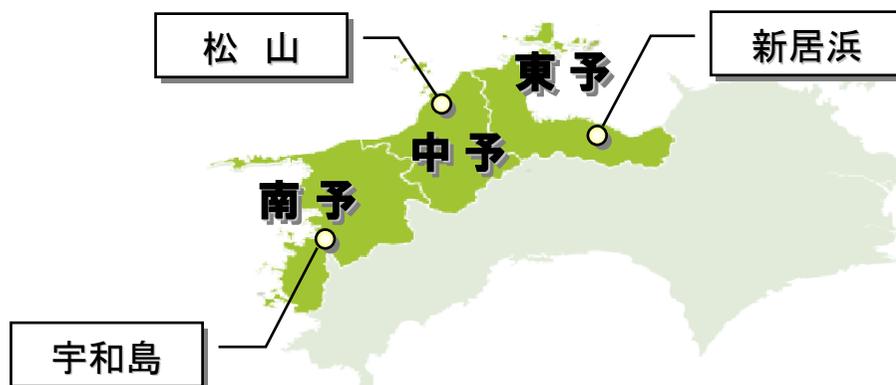
平成19年11月
愛媛銀行 営業統括部

1 愛媛県における第一次産業の状況

産業別総生産の構成比

(単位:%)

		年度	第一次産業	第二次産業	第三次産業
全 国		平成 4 年	1.8	32.7	65.5
		平成 1 4 年	1.2	25.8	73.0
愛媛県		平成 4 年	4.3	34.6	61.1
		平成 1 4 年	2.6	28.3	69.2
愛媛県	東予	平成 1 4 年	1.9	41.2	56.9
	中予	平成 1 4 年	1.7	20.0	78.3
	南予	平成 1 4 年	6.0	19.3	74.8



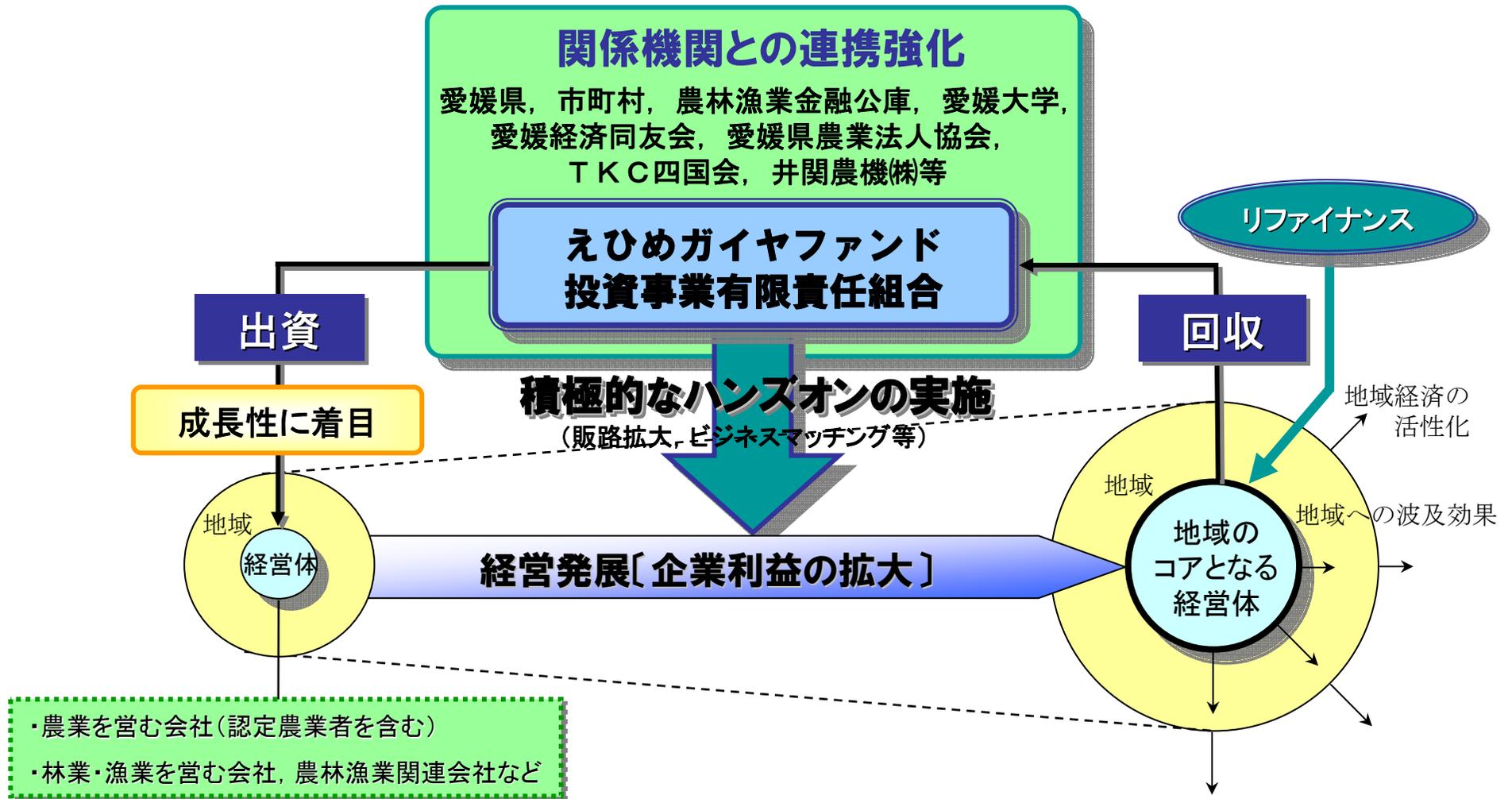
資料: 県民経済計算年報

2 えひめガイヤファンドのねらい



- 地域活性化のためには、地域における主要な産業である第一次産業及びその関連産業を核としつつ、地域特性を活かした**新たなビジネスモデルの発掘・育成**が必要
- このためには、特に**スタートアップ(シーズ)**への支援により、**地域のコアとなる事業体を中長期的な視点で育成・支援**することが重要
- 新しいビジネスモデルを構築しようとする**スタートアップ(シーズ)**は、経営実績が不十分で、信用力に乏しい(**一般的に過小資本かつ担保不足**)
- また、新しいビジネスモデルゆえに、当面の資金繰りが不安定になるおそれ
- このため、従来の融資のみによる手法では、必要十分な金融支援を行うことが困難なケースもあり、**新たなビジネスモデルの発掘・育成には限界**も
- 第一次産業及びその関連産業向けとしては日本国内初となる投資ファンド「えひめガイヤファンド」を創設し、**スタートアップ(シーズ)**を中心として投資(農業生産法人等は社債の引き受け)
- 投資ファンドという**新たな手法**で起業を支援し、従来の融資のみによる手法では限界のあった**新たなビジネスモデルの発掘・育成に注力**

3 えひめガイヤファンドによる投資育成のイメージ



4 投資育成のプロセス

発掘

愛媛県南部(南予)をはじめとした地域の特性を活かしたビジネスモデルを構築し、(株)愛媛銀行、農林漁業金融公庫、日立キャピタル(株)等が連携・協調して情報収集及び案件発掘を行う。

法人の設立や事業計画の立案も支援する。

審査・投資決定

調査・選定した案件は、投資検討委員会で協議し、ひめぎん総合リース(株)の経営会議で投資決定する。

農林漁業金融公庫及び日立キャピタル(株)等、他の金融機関とも連携・協調して融資とリースを組み合わせた適切な資金支援を行う。

育成・支援

地域活性化に資するコア事業に成長させるべく、関係機関(愛媛県、市町村、中小企業基盤整備機構、愛媛大学、愛媛経済同友会、TKC四国会、井関農機(株)等)と連携した強力なハンズオン体制を構築し、継続的な育成・支援活動を実施する。

5 投資対象とするビジネスモデル構築の視点

ガイヤファンド活用

他産業からの農林漁業及びその関連産業への参入支援

参入

最新の農業・工業技術(IT技術等)を応用した生産・流通・販売の効率化・高付加価値化

新技術

商流

川上⇄川中⇄川下の新たな連携や乗り入れによる生産・流通・販売の効率化・高付加価値化(農工連携による新たなフードシステムの確立)

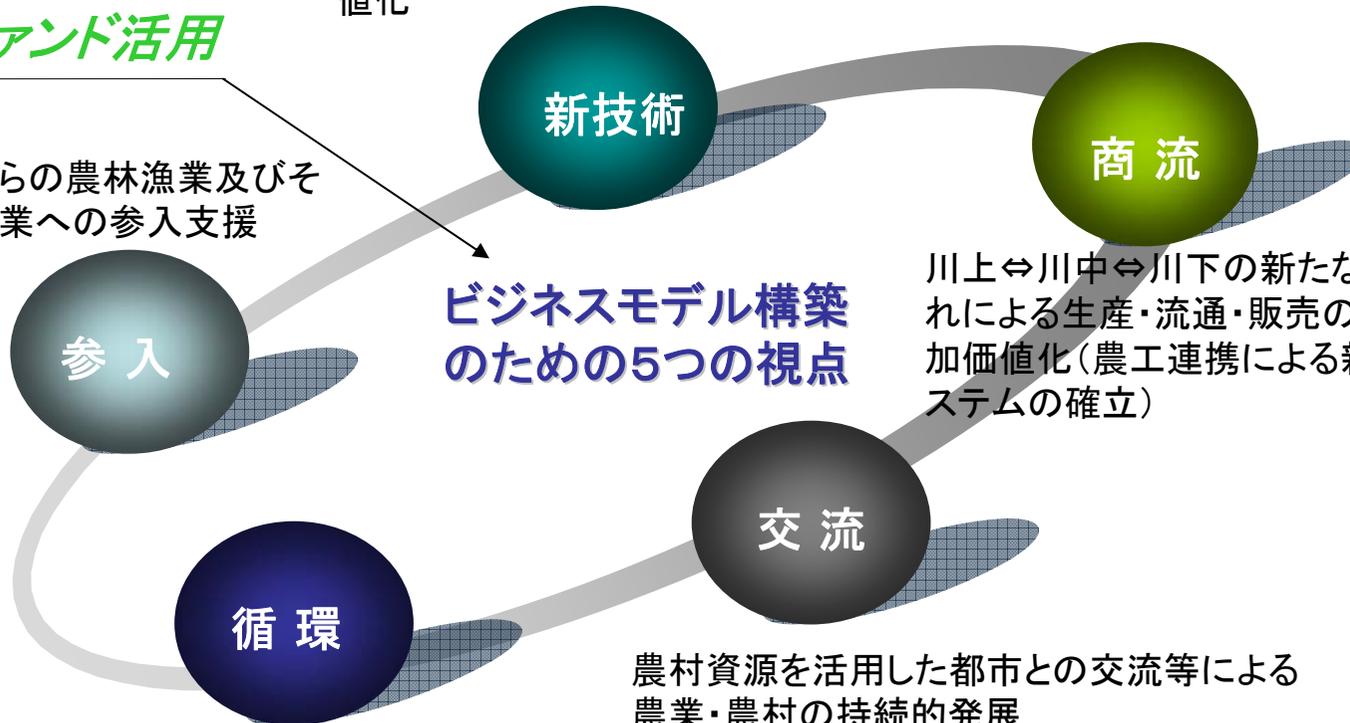
ビジネスモデル構築のための5つの視点

交流

農村資源を活用した都市との交流等による農業・農村の持続的発展

循環

農業・農村における資源循環型システムの確立(バイオマス等)



6 投資育成による地域への波及効果

